

分科会討議日程

第19科会「子ども・青年と進路」

共同研究者	加藤 栄一(富山県立富山いずみ高等学校)
分科会役員氏名(学校名)	中村 敬次(長野私立下氷鮑小学校) 鎌倉 久至(諏訪市立原小学校) 工藤 雅史(市立長野高等学校)

11月4日(土)

時間割	レポート題名	学校(支部)	氏名	
討議 I 13:00～ 15:00	討議の柱:			
	1	課題提起 加藤 栄一先生による青年と進路における実情と課題		
	2	長野における進路(就職)保障の取り組み	長野東高校(長水)	村田 直樹
	3			
	4			
討議 II 15:10～ 17:00	討議の柱:			
	5	中高一貫校からの進路について(市立一貫1期生の卒業学年担任としての感想)	市立長野高等学校	工藤 雅史
	6			
	7			
討議 III 17:00～ 17:30	まとめ			

参加者への 連絡事項	
---------------	--

10月末の ある1日の様子

「朝8時過ぎに登校すると職員室前では推薦入試にむけて指導している教員と生徒数人をみかける。職員室では教頭が次々に電話を取り、担任につないでいる。欠席などの連絡である。8時25分学年主任が学年ごとに打合せを始める。連絡事項をメモして、担任は8時30分に教室へ行く。

(勤務時間は8時30分～) 朝読書(朝学習)が10分間指定され、生徒たちは本を読んでいる(読んでいるふりをしている)8時40分のチャイムで朝のSTが始まり、次々と連絡事項が伝えられる。「○○の調査Googleクラスルームで答えてください」のような連絡もある。

1限は空き時間だったが、同じ教科の若手教員から、「今週の単語テストと授業用のプリントです」と渡される。「あと週末課題は偶数クラスの点検お願いします」と「今週の課題は進研模試の過去問です」と。その後英語科主任から「英語検定1次の合格者の名簿が出ました。2次面接の指導ですが、準2級合格者4人ほどお願いできますか」

授業では、まず単語テストで始まる。解答をして、採点させて集める。その後、本文にそって解説しプリントを用いて、意味を確認して音読していく。さらに前もって用意された本文の内容に関する○×問題、英問英答問題、章末の練習問題をして授業が終了する。

昼休み、些細なことで担任が生徒と話している。友達が誰も話しかけてくれないとのこと。「そりゃ自分から話しかけなければ無理でしょ」と陰でつぶやく教員の声、3年生担当者はほとんどが生徒と面談、パソコンで模試結果からアドバイスをしている。推薦入試を受験する生徒たちは担当の教員に面接練習や小論文指導をしてもらっている。自分のところにも富山県立大学看護学部を推薦受験する6名の生徒がきている。ほとんどが放課後で毎日2~3人ごと過去問を中心に指導している。

進路担当の自分は空き時間に模試の準備をしたり、進路会計に関わる出金のため、銀行へ行く。また担当している生徒の添削をしたりする。

7限の授業が終了し、清掃指導に行き、戻ってからは学年会議、その後、待っていた生徒に個別指導。他にも職員室横の廊下(質問コーナー)では、推薦入試を志望する生徒に向けての指導が多数行われている。担当の先生から「こんな風に書いたら」とか「根拠はここに書いてあるからここを抜き出したら」とか。アドバイスする声が聞こえてくる。

学年会ではベネッセのスタディサポートの分析報告もあった。Classiという学習支援ソフトの導入も検討されている。生徒も教師も考えなくなるツールではないかと疑問をもった。

職員室に残っている3学年の方から、「○○短大の推薦書が書きづらい。思考力・判断力・表現力の欄に何を書けばいいのか、書くことがない」「生徒の志願理由書が理由になっていない。締め切りが迫っているから書き直す時間もない。ゴーストライターになって書くしかない」「将来何をしたいか聞いたら、何も答えない。少しは準備しておけよ」「○○短大の志望理由を聞いたら、県内だから。その答えはないだろう」「Aさん(生徒)は模試の判定がDだから推薦で合格しないときつい」などと聞こえてくる。

1学年主任は民間業者と講演会についての打ち合わせをしている。目的は文理選択を踏まえての学習と模試の心構え。6時過ぎ、先ほど添削していたものを生徒が取りに来たので、少しアドバイスする。もう7時近く、機械警備の設定上、学校は19時には退出しなければならない。

はじめに 簡単な自己紹介と報告の流れ

長野教研の討論と研究の視点

- (1) 「子どものいま」をとらえてその背景を探ろう
- (2) 子どもの「学び」について語り合おう

1. 今の高校生の姿と大学生の姿

授業中に前後、横の生徒と平気で話をする 教師の話すことがクラス全体にうまく伝わらない
一見まじめ、そして指示待ち、指示されないとなかなか行動しない、安易な方向へ流れる姿勢
子ども化 (幼稚化) 空き教室に空のペットボトル
グループ学習が一見成立しているが何をそこから学び取っているのか疑問

ゼミ担当の先生が辞めさせられても抗議しない大学生

(かつて学費値上げなど大学生は不当なことには抗議した シールズのような運動もあった)
授業前に電灯もつけずにスマホを見ている学生たち (誰か電灯ぐらいつけたら)
(関係性が希薄な中であえて自分が目立つ行動をとらない)

2. 学校現場で何が起きているのか

① 教師の置かれている状況の変化

時間的な余裕のなさと精神的な多忙感

連日、勤務時間を超えて学校にいるのに授業の準備やテストの採点は自宅で行う状況

人はある容量以上の情報処理(仕事)をこなそうとするとフリーズする

今の状況はいろいろな仕事が入ってくるフリーズしやすい状態になっている

新しい提案がされても意見が出ない職員会議、何も疑問を持たない若手教諭

課題を課して小テストをやることで満足する 手をかけることで自己満足 学習時間を気にする

保護者からのクレームをさかんに気にするようになった

原因1. 多様な入試制度による教師側への負担

原因2. 評価、ICTなど政策的に教育への介入

原因3. 決まったものには従う、政策的なことは無関心、管理職の指示には従う教員の雰囲気

原因4. 保護者と学校との関係変化(学校はサービスを提供する場)

原因5. 民間業者の介入

(仮説) 時間的な余裕があれば教師はもっと深く考えたり創造的な仕事ができるのではないか
押し付けられた仕事より個々の教師が自主的に考え、気軽に話し合える環境の方が
教育の質が高まるのではないか

② 生徒の置かれている状況の変化

自由度が低くなった いろいろな課題に追われる 枠の中で主体性や探求心を求められる

校則の変更も学校側からの要請(一見生徒会が参加しているが)

(仮説) 手を掛けない方が自主性が育ち、人間的に成長するのではないか

3. 変化の原因は 新自由主義、市場原理に巻き込まれた教育現場

2000年 → 2023年に何が起こったのか

- ① 小泉・竹中の新自由主義
- ② 安倍政権下で2006年の教育基本法改悪 2007年の全国学力テスト
ゼロトレランス ○○スタンダード アクティブラーニングなど

結果 進路指導では

パソコンの画面を見ながらの面談

生徒との個人面接に模試結果のデータが活用され、学習面や進路指導について面談が行われる。

生徒も教師も模試の合否判定をうのみに。模試結果から△△大学はどうかと勧められる。

志望校を早く決めて、学習意欲を高める狙いだろうが、むしろ生徒の思いや困難に向き合うことが重要ではないか 早く進路を決めさせることで生きづらい学校生活になっていないか

- ③ 高校現場に民間業者が露骨に介入

総合的な学習、探究活動、進路講演、文理選択、全体保護者会などに業者介入

学校内での学年担当者と業者との頻繁な打合せ（ベネッセ、リクルート、マイナビなど）

4. 一教師から、未来の教育現場へ（私見です）

- (1)何事にも付度をしない 目の前の生徒がこれからの社会をになう主権者へと成長することを考える

教師自身が自らの教育に信念を持つこと 手段と目的を混同しない

- (2)職場、同僚と本音を話し合える関係性

信念を持った行動が共感を得ると大きな動きになる

- (3)植物を育てる感覚 子どもは種子という視点 時間的なスパンを伸ばして考える

太陽の光も、雨も、虫の発生も人力ではコントロールできない。

何が実を結ぶにせよそれは「天の恵み」（内田 樹氏）

教育はすぐに成果はでない。10年後20年を経て生きてくるもの

- (4)道徳教育より市民教育（名古屋大学 勇気ある知識人）

正義的批判者 今の社会のおかしい面を批判し、どのように改善していくか

主権者になるとはその社会の形成者になること 自分たちはどのような社会を目指していくのか

そのためにはしっかり学び、自ら考える必要がある その環境を用意するのが教師の仕事

- (5)夢や職業探しのキャリア教育より現実をどう考えどう行動するか

かつての人生 フルタイムの教育期間 → フルタイムの仕事期間 → フルタイムの引退期間

現代はフルタイムという状況ではない

良心的な企業経営者なら次のように社員に語りかけるかも

「今の仕事で自分のスキルをまず磨きなさい。しばらくするといろいろな学習機会を与えるから、自分のキャリアを考えて学びなさい。異なる分野で活躍したければ異動の機会を与えるから、手を挙げなさい。今、身につけているスキルは一定期間しか通用しない。自ら学習し続けることが、必要である。現状維持だと50歳もいかないうちに退職してもらうことになる。今後必要なのは自ら学ぶ力と他とつながる力そして健康である」

職業に就いたとしてもその職業がなくなるかもしれないのが現在の社会である。いわゆるキャリアの分節が起こる社会であることを伝える。その中でどうやって自ら人生を創造するか、柔軟な発想や複数の選択肢を準備することも必要になる

時間があれば

1. 入試制度改革と高大接続改革 → 学力形成に大きな影響を与えた

センター試験がもたらしたもの 中部東海ブロック大学入試検討委員会での見解

① 言語力の低下

・漢字の読み書き能力と語彙力が低下している。言葉で論理をたどる力、言葉で論理的な説明をしたり、授業中重要なポイントを自分の言葉でノートにする（まとめる）ことがうまくできない。自分の思いや考えを適切なことばで相手に伝える力が低下、特に志望理由書が書けない。面接は準備したことを暗記して臨む

・2002年「英語が使える日本人」が英語教育改革へと 文法訳読からオーラル・会話重視への転換
⇒言語力の低下の要因ではないかと考えられる

② 知の量的不足と質的低下

学校教育に市場原理が入り込む ⇒ 生徒が消費者になり、学校は選ばれる商品になった

自分の持つ学力、学習行動で、できるだけ付加価値の高い進路に進みたい 学びの量的不足と質的低下が進み、生活知が貧弱になり、高校生としての共通教養が崩壊している状況

③ 知に向かう姿勢の劣化

興味が湧かないもの、必要性を感じないものには、最初から背を向ける生徒が増えた。知を高めるには、広い裾野が必要である。知の裾野を広げようという姿勢がない。進路に関係のあること以外授業を聴こうとする意欲すらない生徒が目立つようになった。また困難に挑戦していくよりも合格できそうで就職率が高い進学先を選択する傾向がある。

学びより資格を 英検受験者の増加（持っていた方が良さそうだ）自分にとって役に立つものを選択する

物事の本質を理解しようとする時間が少なくなる。手っ取り早く点数につなげるためには暗記の方が効率的。各定期考査同様に日々の学習が暗記中心になってしまっているが応用の利く学習ではない
現在の状況はクーポン的な学力

※ 英語教師として感じること

「英語民間試験」を入試として利用することについては、英語教育に歪んだ影響を与える可能性

「対策を立てて少し練習すれば得点上がる試験」よりも、「純粹に英語力を高めないと得点上がらない試験」の方が、学力形成の面で良い試験である。民間資格試験、共通テストは、どれも対策本などをこなすことで、それが直に得点に結びつく傾向がある。現在都立高校で実施が予定されているスピーキングテスト（ベネッセが実施していたが撤退した）は大きな問題がある。

かつて高校生の英語学習の中心が文法そして英文和訳であった。日本語を母語とする日本人が英語という日本語と異なる語の配列、表現方法に気づき、そのことで母語との対比ができ、言葉に対する深い理解につながった。現在、授業が会話中心、試験も大量の英文（題材もパンフレットや案内文など）が出題され、読むというより情報処理。中高生には文法、そして読解力、英文を書く力が大切であると考えられている

本来、会話というのは表情や言葉の使い方、場面や相手 いろいろな情報をインプットして行われるもの。多くの情報をインプットするとむしろ学びが単純になる。訳読のように単純な方が深い学びになるのではないか？

「指導要領が改訂され、高校と大学がこれまでの知見によっては対応困難な評価を行うことが強制されれば、先行投資してきた特定企業にはまたとない商機が生まれ、教員・学校は彼らに従属せざるを得なくなるだろう」

引用『教育』2015年3月 北海道大学 光本 滋

長野における進路(就職)保障の取り組み

2023年3月

就職差別をなくす長野県共闘会議
長野県高等学校教育文化会議進路指導研究会

主な経過

1. 2022年度の経過…今年度も、昨年度同様 新型コロナの感染拡大により全て中止
(参考までに2019年度のものを掲載)

5月27日 長野県高等学校進路指導等研究協議会開催
9月～ 「2019年度就職選考実態調査」実施
1月26日 第44回進路指導(就職)全県研究会
「2019年度就職選考実態調査」結果公表

2. 1980年代以降の主な成果

- (1) 学卒者の就職選考時の人権保障について行政当局の取り組みに一定の影響を与え、次のような点で指導の前進が見られます。
- ① 「新規学校卒業者求人説明会資料」および「就職の機会均等の確保のために」(現在「公正な採用選考をめざして」)の事業主研修資料の一部を改正し、違反行為が起これぬよう指導の強化に努めています。
 - ② 職業安定所で求人受付の際、各企業に対して、「新規学校卒業者採用選考実施状況」調査を行うことにしました。
 - ③ 職業安定所は、従来企業に対する個別指導をしませんでしたが、問題企業に対する個別指導を行うことにしました。
 - ④ 社会部長名による企業に対する「要請書」(85.6.1)の送付など、一定の指導の強化措置が取られています。
 - ⑤ 就職共闘の強い要請により、公私立の全高校を対象に「高等学校進路指導主事研究協議会」が開催されるようになりました。
- (2) 県労働基準局交渉、県婦人少年室交渉等によって、就職時における問題と就職後の職場における問題の追求が統一的に行われるようになり、具体的に成果をあげています。
- (3) 行政指導、企業への質問状、要請活動等の取り組みによって、いくつかの企業が正式選考方法の改善を約束し、その影響が他企業にも波及しました。(82年度)(84年度)
また、短大生に対する高校時の成績証明書の提出に抗議し、改善していただいた企業もあります。(94年度)
- (4) 就職選考のあり方について社会的関心が従来に比べ広がり、大手を中心に一定の改善がなされました。

[1] 2022年度 「就職選考(試験)実態調査」結果概要

1. 調査の趣旨

この調査は、長野県教育文化会議進路指導研究会が、1976年度に行った試行的な調査結果と、それにもとづく、長野高教組第89回中央委員会(1980.9.20)決定の方針「『就職選考についての実態調査』を一定数の生徒を対象に全分会で実施」によりながら、同年11月以来、生徒が受けた最初の就職選考について毎年度実施しているものです。(1983年度から就職共闘会議として行っています。)

もとよりこの調査は、進路指導についてのわれわれの力量を高め、不公正、不当な就職についての選考をなくし、生徒の進路保障を確立するとりくみに資するものですが、同時にわれわれの学習の材料としても充分検討されるべきものです。調査結果について若干の考察を試み、今後の方向性を探ることにします。

就職は労働力の売り渡し契約であって、労働者の人格まで売り渡すものではありません。このことを保障するために、憲法以下の諸法令が設けられ、行政当局も一定の指導を行っています。

厚生労働省作成の事業主研修資料「公正な採用選考をめざして」によれば、採用選考に当たっては、

- ① 「人を人としてみる」人間尊重の精神、すなわち、応募者の基本的人権を尊重する。
- ② 「応募者の能力・適性のみを基準として行う。」

とあります。

具体的には、

- (1) 採用選考のための社会体制
- (2) 採用基準・選考方法
- (3) 求人への提示
- (4) 応募の受け付け(応募書類・エントリーシート)
- (5) 学力検査・作文
- (6) 適性検査等
- (7) 面接
- (8) 採否の決定(内定)

についてのチェックポイントが示されています。

採用選考については、「資本の論理」や「企業の都合」という名での、恣意的な選考を行うことは禁じられています。一方、高等学校の就職についての業務は、職業安定法第26条の3あるいは同33条の2で行っています。(県下では後者がほとんどです。— 県職業安定課説明)したがって学校自体も以上のことがらについての配慮をしなければなりません。

ここ40年間余りでの調査結果をみますと、上記で触れてきたことが充分遵守されているとは言えません。

本調査では、(3)～(7)のことがらに特に留意し、合理的、科学的な選考を考え、以下これを具体的に考えてみます。(調査は、すべて第1回目の選考結果によるもので、原則として、2022年12月末日までに報告されたものです)

2. 実施人員

厚生労働省 令和4年12月発表資料 (令和4年11月末現在) ※()内は、昨年度同期

長野県 求人数 7,314人(6,132) 求職者数 2,598人(2,674) 男 1,646人(1,623) 女 952人(1,051)
 内定者数 2,264人(2,291) 男 1,449人(1,423) 女 815人(868)
 求人倍率 2.82倍(2.29) 就職内定率 87.1%(85.7) 男 88.0%(87.7) 女 85.6%(82.6)

年度	1981	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94
人員	4,446	2,033	5,362	4,282	4,614	4,967	4,942	3,851	4,354	4,334	2,763	2,997	2,156	2,541
年度	95	96	97	98	99	2000	01	02	03	04	05	06	07	08
人員	2,070	1,721	1,194	1,141	1,062	1,271	1,224	1,125	1,155	1,177	957	898	1,133	977
年度	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
人員	811	971	1,115	1,046	845	1,120	1,005	1,264	1,312	1,238	972	1,167	1,114	917

2022年度、報告があったのは40校(62学科)、男618名、女299名です。2名以上受験した企業のうちの36企業(受験者101名、全体の11.0%)で問題のある選考が報告されました。(昨年度 36校49学科 男697名 女417名 31企業92名、全体の8.3%)

3. 調査内容のいくつかの特徴・問題点

(1) 不採用率

内定率 令和4年度10月末 全国平均 76.1% 男子77.0% 女子74.6%
 (昨年度10月末 全国平均 75.1% 男子76.3% 女子73.2%)

年 度	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96
全調査者に 対する割合	16.2	24.4	16.9	10.0	15.3	14.3	11.3	7.8	4.9	2.3	3.9	6.7	10.9	12.9	14.8	9.3
年 度	97	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12
全調査者に 対する割合	9.0	15.8	13.3	10.6	18.4	24.9	23.6	15.5	14.0	10.7	11.0	21.0	24.7	23.3	20.2	27.3
年 度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	2022年度は男 4.5%、女 7.0%で、昨年度と比べ 不採用率は、男子は低下、女子は横ばいとなっています。 (昨年度 男 8.5%、女 7.0%)					
全調査者に 対する割合	20.2	17.4	14.4	13.4	8.9	6.2	9.6	13.6	7.9	5.3						

(2) 学 科 試 験

2名以上受験した企業のうち問題のある選考が報告された企業の中で、5科目以上を課したところが8企業あります。昨年度が4企業でしたから、増加傾向にあります。2019年4月厚生労働省作成の「公正な採用選考をめざして」(以下「資料」という)では、チェックポイントとして「学科試験(作文を含む)は、職務遂行に必要な適性・能力(知識)をもっているかどうか判断するために実施していますか。」をあげています。この趣旨を生かしてほしいものです。

(3) 作 文 課 題

「資料」は「作文のテーマは、『私の生き立ち』『私の家庭』等本人の家庭環境に係るものや、思想、信条を推測するためのものを課していませんか。」(チェックポイント)と説明しています。

テーマについて、本人に責任のない事項、あるいは、本来、自由であるべき事項を、直接・間接的に書かせていないか十分留意する必要があります。応募者にとって「書きづらいもの」「他人にいいたくないこと」あるいは「触れられたくない事柄」があります。例えば、両親を早く亡くした応募者に「父母」について書かせたり、つらい苦しい日々を過ごしてきた人に「生き立ち」を語らせるのは、その人にとってどんな気持ちになるかよく考え、このようなテーマの出題は避けることです。今年度は、大きく問題となる出題は見られませんでした。作文は、応募者が自分の気持ちや意見を主体的に表現するものです。テーマについて十分配慮する必要があります。

(4) 面接項目の状況(各面接項目の割合) ※「問題あり」と報告された生徒数の中での割合

項目	年度	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01	02
1	本籍 (県名以外)	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
		7.4	8.7	7.6	6.6	11.2	11.0	7.9	9.5	8.3	5.5	9.9	10.7	9.7	8.7	7.9	9.0	7.8	9.3	10.3	11.6	12.7
2	生い立ち	2.2	2.4	2.1	3.2	3.1	5.4	2.9	5.4	4.7	2.4	3.6	3.9	2.6	4.6	4.7	3.2	3.4	4.0	5.1	4.6	5.1
3	通勤方法	30.5	39.4	28.5	42.4	42.6	47.9	45.2	52.2	52.4	26.5	53.1	49.9	45.0	52.2	59.2	59.7	45.7	44.8	42.3	47.0	34.2
4	略図・道順	9.8	14.4	10.6	19.7	18.5	13.9	13.0	14.8	13.4	6.6	14.5	23.8	10.6	12.0	12.4	13.4	11.5	13.7	10.1	17.4	14.5
5	家族の職業	32.7	44.9	30.7	49.4	58.3	43.8	44.2	49.3	45.0	28.5	50.9	54.4	55.4	47.2	33.1	33.0	37.3	34.0	36.4	35.3	41.2
6	〃 収入	0.5	0.4	0.4	0.6	0.6	0.4	0.2	0.5	1.0	0.2	0.1	0.2	0.3	0.4	0	0	0.3	0.2	0	0	0.1
7	〃 学歴	0.9	1.9	1.1	1.3	2.6	1.7	1.1	1.3	1.0	0.4	1.2	1.5	1.3	1.0	0.8	0.6	0	1.3	0.1	1.8	0
8	家の財産	1.3	1.4	0.8	1.0	0.8	1.0	0.3	0.4	0	0.1	0.4	0.4	0	0.1	0.2	0.2	0	0.2	0	0	0
9	家屋の状況	0.8	1.8	1.4	0.3	1.7	1.4	1.6	1.6	1.4	0.6	1.8	2.3	2.4	0.8	0.8	1.3	3.0	2.6	3.2	1.8	3.3
10	家の宗教	0.1	1.1	0.5	0.3	1.9	0.5	0.3	0.4	0	0	0.3	0.4	1.0	0.3	0.4	1.3	0	0.4	0	0.7	0.1
11	支持政党	0.2	1.2	0.2	0.2	1.0	0.8	0.5	0.3	0	0	0.1	0.1	0	0.4	0	0	0.3	0	0	0.2	0
12	信仰・生活信条	0.7	2.3	1.1	2.5	1.0	1.5	0.9	1.0	1.0	0.6	0.9	1.3	0.1	0.8	1.0	0.8	0.6	0.4	0.1	0.7	0.1
13	愛読書・新聞	8.0	15.9	9.8	14.6	17.8	18.6	13.9	14.0	14.8	6.6	9.6	14.0	15.0	12.6	9.9	7.3	9.8	7.3	11.0	8.3	8.7
14	尊敬する人物	4.0	7.6	4.9	4.8	9.9	6.9	8.4	9.2	7.1	2.9	6.6	8.5	8.6	8.0	3.7	5.7	10.1	7.5	4.5	6.7	1.8
15	友人・先輩	15.2	24.4	17.5	20.0	28.8	26.8	23.8	31.0	23.4	10.0	23.0	25.5	19.2	20.7	23.3	30.2	28.9	19.7	18.8	18.7	19.1
16	クラブ・生徒会	29.7	59.1	29.5	61.1	70.3	70.1	64.7	70.7	69.0	33.0	63.9	63.2	58.8	62.4	64.1	65.5	62.2	60.3	62.1	56.4	57.9
17	社会問題	5.5	8.7	3.0	9.3	9.8	7.6	6.6	8.4	8.5	3.5	9.0	9.0	11.6	10.8	10.7	5.3	9.0	6.6	8.2	12.7	8.2

2003年度より調査項目一部変更

2007年度から2018年度までの調査項目

項目	年度	03	04	05	06	項目	年度	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1	本籍	11.6	6.5	9.5	11.9	1	本籍	8.5	10.1	10.1	5.2	11.9	7.7	8.0	8.5	5.7	8.4	13.3	7.6
2	おいたち	4.3	3.4	4.9	4.1	2	家庭環境	1.9	1.4	0	3.5	2.4	0.5	3.0	2.1	1.3	6.2	0.6	2.1
3	自宅通勤可否	28.9	30.5	33.2	40.9	3	家族構成	52.8	46.9	48.0	49.7	45.5	60.3	42.0	43.1	50.4	72.2	54.5	63.4
4	家族構成	38.8	45.0	45.7	49.7	4	家族の学歴	1.6	2.2	4.5	2.4	2.4	1.4	2.2	0.9	1.3	1.2	0.6	1.4
5	家族の職業	30.3	34.1	33.6	37.8	5	〃の職業	30.2	24.2	25.7	29.4	25.1	37.8	23.0	26.1	23.2	43.8	27.3	31.7
6	〃の収入	0.6	0	0	0.5	6	〃の収入	0.7	0	0	0.3	0	0	0	0	0.4	0	0.6	0
7	〃の学歴	0.6	1.2	0	1.0	7	家庭の資産	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0
8	家の財産	0	0.5	0	0.5	8	おいたち	5.6	9.7	8.9	8.0	7.7	6.7	7.0	5.8	3.9	4.9	9.1	3.4
9	家屋の状況	0.4	1.0	1.3	0.5	9	思想・信条	1.3	2.9	1.7	0.7	2.9	1.4	1.3	3.0	4.4	3.1	0.6	1.4
10	家の宗教	0	0.7	0.3	0	10	支持政党	0.3	0	0	0.3	0	0	0.4	0	0.4	0	0.6	0
11	支持政党	0.2	0	0.6	0	11	愛読書・新聞	4.9	7.6	3.4	6.6	10.1	5.7	8.8	11.2	4.8	7.4	6.7	7.6
12	信仰・生活信条	0.6	1.0	1.0	0	12	尊敬する人物	5.9	9.0	8.9	8.7	11.4	9.1	5.8	12.5	12.7	9.9	10.3	11.7
13	愛読書・新聞	11.2	7.7	12.5	10.8	13	女性限定質問	2.0	0	0	1.7	1.3	2.4	1.8	0.6	1.3	1.9	1.8	0
14	尊敬する人物	5.5	10.1	4.9	4.7														
15	クラブ・生徒会	60.2	58.2	65.8	55.9														
16	社会問題	8.9	7.0	7.2	8.8														
17	女性限定質問	1.0	1.0	0.6	3.1														

2007年度より長野労働局・ハローワーク「差別のない雇用をめざして」で「就職差別につながるおそれのある質問項目」として挙げられている項目に、調査項目も統一しました。

2009年度から本年度(2022年度)までの調査項目(2009～2018年度の分は再掲)

	項目 年度	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1	本籍	10.1	5.2	11.9	7.7	8.0	8.5	5.7	8.4	13.3	7.6	8.9	12.7	6.5	1.0
2	家庭環境	0	3.5	2.4	0.5	3.0	2.1	1.3	6.2	0.6	2.1	2.0	1.3	2.2	2.0
3	家族構成	48.0	49.7	45.5	60.3	42.0	43.1	50.4	72.2	54.5	63.4	71.3	54.0	66.3	46.5
4	家族の学歴	4.5	2.4	2.4	1.4	2.2	0.9	1.3	1.2	0.6	1.4	3.0	0.7	0	1.0
5	〃 の職業	25.7	29.4	25.1	37.8	23.0	26.1	23.2	43.8	27.3	31.7	27.7	25.3	19.6	24.8
6	〃 の収入	0	0.3	0	0	0	0	0.4	0	0.6	0	0	0.7	0	0
7	家庭の資産	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.7	0	0
8	おいたち	8.9	8.0	7.7	6.7	7.0	5.8	3.9	4.9	9.1	3.4	12.9	8.7	3.3	7.9
9	思想・信条	1.7	0.7	2.9	1.4	1.3	3.0	4.4	3.1	0.6	1.4	1.0	0.7	0	1.0
10	支持政党	0	0.3	0	0	0.4	0	0.4	0	0.6	0	0	0	0	0
11	愛読書・新聞	3.4	6.6	10.1	5.7	8.8	11.2	4.8	7.4	6.7	7.6	6.9	7.3	6.5	5.0
12	尊敬する人物	8.9	8.7	11.4	9.1	5.8	12.5	12.7	9.9	10.3	11.7	3.0	9.3	12.0	8.9
13	女性限定質問	0	1.7	1.3	2.4	1.8	0.6	1.3	1.9	1.8	0	0	1.3	2.2	0

なぜこのような質問はいけないのか（資料より）

本籍

職務を遂行する上でなぜ本籍が必要なのでしょう。本籍を質問することは、出身地を把握することであり、過去の史実からも同和関係者を排除してしまうことにつながる危険性が高く、結果的には就職差別につながるおそれがあります。

家族の職業・地位・収入

応募者の能力と適性に関わりのない本人の責任でないことがらで判断しようとしており、公正な採用選考とはいえません。このことは、政治的に形成された部落差別により、教育や就職の機会均等の権利を侵害されてきた被差別部落の人たちを排除することにもつながるものです。

家の資産

家の資産は、採用後、企業に損害を与えた場合の保証能力の有無や、家庭の生活程度を判断するために調べられることが多いのです。このことが、貧困な家庭の子どもなどを排除し、就職差別になることは言うまでもありません。

思想・信条・宗教、支持政党、尊敬する人物

思想・信条や宗教、支持する政党、人生観などは、信教の自由、思想・信条の自由など、憲法で保証されている個人の自由権に属することがらです。それを、採用選考に持ち込むことは、基本的人権を侵すことであり、絶対に行うべきではありません。

女性に限定しての質問

- ・結婚しても働き続けられますか
- ・学生時代は自宅通学でしたか。
- ・何歳ぐらいまで働けますか。
- ・今、つきあっている人はいますか。
- ・結婚の予定はありますか。

これらについて、女性に限定しての質問は、男女の雇用機会均等の趣旨に違反する採用選考につながります。

2022年度での特徴は、相変わらず本人の資質に関係のない質問がされている点です。家族構成を中心とした家族関係の質問が高い数字です。家族構成や家族の職業など本人に関係のないことに関する質問も、ここ数年、ほぼ横ばいで項目によってはやや増加傾向にあります。

母子家庭や父子家庭の生徒に対して、家族関係を尋ねることは、このこと自体『本人に責任のない事項』であるとともに、応募者によっては答えにくい場合があり、応募者を精神的に苦しめ、その心的打撃は面接態度に現れます。このような応募者の言動から受ける印象によって、質問に答えやすい人と比較し、採否決定の判断資料とするのは公正な選考とは言えません。また、家族の職業についても本人の能力、適性に関係のないことであり、面接時の質問としては不適切です。また、家族の収入についての質問も、いまだに年によっては見られます。

「『本人に責任のない事項』『本来、自由であるべき事項』にかかわる事項は差別につながるおそれがあるので質問しないようにし、『職務遂行のための応募者の能力・適性の判定』に必要な項目に限るようにしてください。」という「資料」のいう配慮すべきポイントを面接担当者全員で確認することが必要だと思われます。（質問項目については「資料」を参照）

(5) 戸籍謄本等の提出

年 度	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96
求めた企業	27	6	54	44	36	55	26	35	33	50	36	23	9	11	5	8
年 度	97	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12
求めた企業	4	3	5	3	2	2	2	3	5	1	1	3	4	2	3	0
年 度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	今年度、2名以上受験した企業のうち問題のある選考が報告された企業の中で、1企業で実施の報告がありました。「資料」では「戸籍 謄本の提出を求めること等」に注意を促しています。					
求めた企業	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1						

(6) 家庭・身元調査の実施

年 度	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96
求めた企業	36	19	68	70	57	71	42	36	51	50	36	23	9	11	6	7
年 度	97	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12
求めた企業	4	6	11	5	16	29	43	39	39	21	53	43	45	45	59	41
年 度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	今年度、家庭・身元調査を実施した企業は、2名以上受験した企業のうち問題のある選考が報告された企業の中で、8企業（9名）、(昨年度 3企業6名)です。昨年度に比べて、企業数・対象生徒数ともに増加しました。「統一用紙」以外の個人・家庭調査などの用紙の提出を求めたものがほとんどですが、今年度は昨年度・一昨年度とは異なり、実際に人を派遣して、家庭調査・身上調査をした企業は1企業1名ありました。(昨年度なし、一昨年度なし)					
求めた企業	28	43	29	13	19	15	10	14	3	8						

「資料」は「身元調査を行うことは、応募者の適性・能力に関係のない事柄などを採用基準とすることになります。本人の資質と直接関係のないこのような行為により採否を決めることは、公正な採用選考を求める目的に反するばかりか、憲法に保障された基本的な人権、職業選択の自由を否定するもので、典型的な就職差別です。採用内定後においても絶対に行わないでください。」としています。

90年度以降減少し、96年度から「統一用紙」の内容から「家族欄」が削除されてからも事例は多くありませんでしたが、02年度から急に増加傾向にあります。独自の調査用紙に記入させることで、脱法的に家族や身元調査を行っている事が多いと推測されます。採用する企業側も、採用数を抑えているため、質の高い人材確保のため必死であることがうかがわれますが、大きな問題です。

4. 「実態調査」アンケート(記述あり…普通科 14校、職業科・専門科・総合学科 6校)

(1) 求人側の主な変化

- ① 求人数に差があり、生徒の希望も片寄る傾向があった。(北信)
- ② 大企業の製造への求人増加。(北信)
- ③ 学校への訪問が増加した。(北信)
- ④ 昨年と変化なし。(北信)
- ⑤ (本校の場合) 評定平均・欠席日数・取得資格(検定)の評価よりも、面接時での人柄・コミュニケーション能力・適性検査が重視されているように感じた。(東信)
- ⑥ 求人数が増加し、学校に訪問される企業が増えた。(東信)
- ⑦ 製造業を中心に求人社数・1社の求人数の増が目立った。(南信)
- ⑧ 景気が上向いている実感は乏しいが、製造業・事務職・サービス業ともに多くの求人があった。(南信)
- ⑨ 求人数増加。(中信)
- ⑩ 地元企業の求人数が増加。(中信)

(2) 「男女雇用機会均等法」の男女の募集および採用における差別禁止について

- ①職種によっては、男性向き、女性向きがあると思います。企業へのヒアリングで確認していますが... (東信)
- ②女性採用のない会社もあり、差別のないようにしてほしいとは思いますが、業務内容上難しいのも理解できる。(東信)
- ③求人票の給与に関する内容が、職場前見学の際に「女子用はこれ」と違う物を渡された女子生徒がいた。(東信)
- ④工業高校でも女子生徒がいる中で、企業様からも「かまいません」と言っています。(南信)
- ⑤若干の企業において、性別を気にする傾向がみられた。(南信)

(3) 各機関への要望

1 県・各地域の職安行政

- ①コロナ禍であっても、高校生の就職を確保できる採用をお願いします。(北信)
- ②地域の求人票をまとめて冊子にして頂けるのは大変ありがたく継続してほしい。その一方で、冊子が7/1に届かず、タイトなスケジュールのため困った。(東信)
- ③もっと生徒が企業を知る機会を増やしてほしい。就職スケジュールが短く、厳しい。(東信)
- ④求人一覧を電子データで頂けるようになったことは、ありがたかった。(南信)
- ⑤丁寧に対応していただいた。(南信)
- ⑥国、県、ハローワークに提出するデータを集計できるシステムを出してほしい。(南信)
- ⑦社会的にも一人一社制についての議論がされているが、できれば廃止してほしい。求人票公開から応募までのスケジュールがタイトなため、一週間でも公開を早くできないか。(中信)

2 県教育委員会

- ①障害者雇用を希望する発達障害の生徒が増えており、人手もノウハウもなく現場は困っている。コーディネーターの配置、研修の設定など対策してほしい。(東信)
- ②(国も含めて)同じような報告をそれぞれの機関にすることが多く、一本化してほしい。(東信)

3 就職差別をなくす共闘会議

(4) その他

〔2〕 今後の主な課題

1. 行政(県教委を含む)に対し、次の取り組みを推進させること

- (1) 新規高卒者への求人の確保を目指すこと。
- (2) 生徒の進路選択に不利益や不当な差別が生じないよう、公正、民主的選考方法の徹底を図ること。
 - ① 国籍等による差別が生じないようにすること。
 - ② 専門学校・短大・大学との競合がないようにすること。
 - ③ 過年度卒業・定時制・通信制による差別がないようにすること。
 - ④ 生徒の家庭環境による差別がないようにすること。
- (3) 選考開始期日・入社期日を再検討すること。
- (4) 高卒者に対する不当な制限の撤廃を求めること。
- (5) 解禁日前の採用選考(とくに県外企業)禁止を徹底すること。
- (6) 高等学校進路指導等研究協議会の充実を図ること。
- (7) 学校との連携を求人情報、求職相談などでさらに強化すること。
- (8) 生徒の企業見学会を設けること。および期日を適切に行うこと。
- (9) 就職後の「転退職実態調査」を行うこと。
- (10) 高校の進路指導を人員、予算で充実すること。
- (11) 生徒の「1人1社制」「併願」について現状を把握して、さらに検討を進めること。
- (12) 「男女雇用機会均等法」改正(1999.4.1施行)の内容を徹底すること。
- (13) 高校への就職支援の事業の継続をはかること。

2. 各校の取り組みについて

- (1) 各校において、「実態調査」の意義を再確認していただき、生徒の進路選択に不利益や不当な差別が起こらないようご協力をお願いします。
- (2) この調査を進路指導に生かし、人権教育の総仕上げとして位置づけ、生徒自らが差別を許さない市民として社会に巣立つよう、対象者全員に訴え、報告を求めていただくようお願いいたします。

3. 共闘会議・研究会のとりくみについて

- (1) 「実態調査」をさらに改善するよう継続して検討する。
(個人情報取り扱い・内容・方法・活用法など)

資 料

公正な採用選考をめざして（厚生労働省）

自社の採用選考システムの点検を

採用選考に関するチェックリスト

チェックの仕方は

- この「チェックリスト」は、事業主、又は人事担当者（責任者）が行ってください。
- 質問事項の答え（□）に○を付けてください。

- 問1 採用方針が定められていますか。 □

1
2

 いる。 □

ア
イ

 能力と適性が中心。
□

2

 いない。 □

イ

 能力と適性以外もある。
- 問2 採用予定職種の職務遂行能力を有するすべての人が応募できますか。 □

1
2

 できる。
□

2

 できない。
- 問3 応募書類は次のようにきまっていますが、これらの用紙を使っていますか。 □

1
2

 使っている。 □

ア
イ
ウ
エ
オ
カ
キ

 履歴書
成績証明書
卒業見込み証明書
身体検査書
身上調査
社用紙
その他
□

2

 他の書類を使っている。 □

ア
イ
ウ
エ
オ
カ
キ

 それは、どんな書類ですか。
- 中卒－職業相談票 乙
高卒－全国高等学校統一用紙
大卒等－大学等所定又は JIS 規格履歴書、もしくは、モデル社用紙
中途採用－ JIS 規格履歴書
- 問4 選考時又は採用前に、戸籍謄(抄)本や住民票謄(抄)本を提出させますか。 □

1
2

 いる。 □

ア
イ
ウ

 応募書類と一緒に
□

2

 いない。 □

ウ

 選考時
採用内定後
それは、いつですか。
- 問5 採用(就職)後に戸籍謄(抄)本や住民票謄(抄)本を提出させていますか。 □

1
2
3

 全員に提出させる。
□

2

 必要に応じて提出させる。
□

3

 提出させない。
- 問6 学科試験の内容は適切ですか。 □

1
2

 適切。
□

2

 不必要な科目がある。
- 問7 作文のテーマを十分検討しましたか。 □

1
2

 十分検討した。
□

2

 検討していない。

問 8	面接の目的、質問項目、担当者等について明確にされていますか。	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2	明確にされている。 明確にされていない。	
問 9	面接時の質問項目は、十分に検討していますか。	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2	検討している。 検討していない。	
問 10	適性検査の実施状況はどうですか。	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2	専門的な知識のある人が実施している。 従来からの慣習で実施している。 その検査の目的以外には用いていない。 その検査の目的以外でも用いることがある。	
問 11	自宅への道順を書かせたり、聞いていますか。	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3	書かせている。 聞いている。 書かせたり聞いたりしていない。	
問 12	家庭の状況等の身元調査を実施していますか。	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2	実施している 実施していない	その方法は <input type="checkbox"/> ア 興信所等に依頼。 <input type="checkbox"/> イ 自社の社員による。 <input type="checkbox"/> ウ その他 実施時期は <input type="checkbox"/> ア 選考日前 <input type="checkbox"/> イ 選考日後
問 13	採否の決定について、応募者の能力、適性を総合的に評価したかどうか検討していますか。	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2	検討している。 検討していない。	
問 14	選考結果の通知や手続きはどうですか。	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2	採否の通知は適性にやっている。 採否の通知は適性にやっていない。 不採用の理由は明確にしている。 不採用の理由は明確ではない。	
問 15	公正採用選考人権啓発推進員を選任していますか。	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2	選任している。 選任していない。	なぜ ですか。 <input type="checkbox"/> ア この制度を知らない。 <input type="checkbox"/> イ 選任する必要がない。
問 16	公正採用選考人権啓発推進員や、雇用主に対する研修会に出席していますか。	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2	出席している。 出席していない。	

チェックが終わったら

この「チェックリスト」によりチェックした結果、ゴシック(太字)の記号(1又は2、ア、イ、ウ 等)に全部○がついていない場合及び細字の記号のところ○がついている場合は、選考方法、選考内容について再検討してください。

2022年度 就職選考（試験）についての調査

長野県高等学校教育文化会議進路指導研究会
就職差別をなくす長野県共闘会議

- (1) この調査は、高校生のみさんの報告にもとづいて、高校生に対する就職選考が憲法や諸法令にもとづいて基本的
人権が充分保障されるようなくみになっているかどうか、実態を知るためをお願いします。
報告された内容については諸君に迷惑をかけることはありませんので、正確に報告してください。
- (2) 個人情報保護の観点から、氏名の記入は不要です。
- (3) 調査項目で不明なところは、就職指導の先生に聞いて報告してください。
- (4) 報告は、みなさんが第一志望で受験したものについてお願いします。（最初の就職選考試験のみが対象です）
- (5) 選択肢のある設問については、○印をつけて答えてください。
- (6) 内は、就職指導の先生が記入してください。

_____ 高等学校 _____ 科 _____ 男・女 _____ 年齢 _____

受験した事業所名 _____

所在地 _____

業 種（事業所の仕事） _____ 応募職種（あなたの仕事） _____

◎ 選考（試験）の状況…… 一次試験・二次試験などすべてを含めて答えてください。

- (1) 選考内容……行われたものを○で囲み、() は記入してください。
- a 学科試験 なし ・ 1～4科目 ・ 5科目以上 ・ 一般常識
- b 作 文 (題 _____)
- c 面 接 (内容は(3)で答えてください。)
- d 身体検査
- e 適性検査・クレペリン検査・性格検査
- f その他 (_____)
- (2) 次のような事実があったら答えてください。（当てはまる項目に○印をしてください。）
- a 応募の際に提出する「履歴書」以外の、個人調査書・家庭調査書・面接のための調査書の提出
- ① あった なかった
- ② あった場合、その提出は (選考前 ・ 選考当日 ・ 選考後)
- b 戸籍謄本・抄本などの提出（住民票の提出は含みますが、住民票記載事項証明書は含まれません。）
- ① あった なかった
- ③ あった場合、その提出は (選考前 ・ 選考当日 ・ 選考後)

ここは、就職担当の先生が記入してください。

受験した事業所名

採 ・ 否 ・ 未定

(○でかこむ)

- c 家庭の調査・身元調査（実際に来られたもの）
（ a の書面で求められた場合および、面接で聞かれた場合は含みません。）

① あった なかった

② あった場合、

- i 時 期 [選考前 ・ 選考当日 ・ 内定までの間 ・ 内定後（わかる場合は 月 日）]
ii 場 所 [自宅・近隣・親せき・家族の勤務先・友人・学校・その他（ ）]
iii 調査者 [事業所関係者・興信所などの民間調査機関・警察など・その他（ ）]
iv 内 容 [本人のこと・家庭のこと・その他（ ）]

- (3) 面接の内容について（該当する内容について、聞かれた場合は「あり」の欄に○印をつけ、内容を答えてください。）

項 目	あり	聞 か れ た 内 容（なるべく具体的に）
1 本 籍		
2 家庭環境（坪数・部屋数など）		
3 家族関係（家族構成など）		
4 家 族 の 学 歴		
5 " の 職 業		
6 " の 収 入		
7 " の 資 産		
8 本 人 の お い た ち		
9 思想・生活信条・宗教		
10 支持政党・加入団体		
11 愛読書・購読新聞		
12 尊敬する人物		
13 女性に限定しての質問		

- (4) 以上のほか、選考（試験）にあたって疑問に思うことがあったら書いてください。

第 19 分科会 「子ども・青年と進路」

(支部名) 長水支部

(職場名) 長野市立長野高等学校

(氏名) 工藤 雅史

中高一貫校の視点から「進路」について考える

1. 自己紹介と、本レポートの主旨

私は、高校の国語科教員として29年目を迎えました。現在が4校め、本校に赴任して5年目です。

現在、長野県下には3校の公立中高一貫校（県立の屋代と諏訪清陵、そして本校）があります。私は、前任が屋代高校であったことから、昨年のこの会では、屋代と市立長野の比較のような話をしました。

今年3月には、「市立長野」の中高一貫の1期生が卒業しました。私はその担任であり、3年間の様子を見てきました。また、今年は高校に加えて中3の平常授業も1クラス担当しています。特に「進路」というキーワードに関わるような観点で、思いつくことを、あれこれとお伝えしたいと思います。

高校選びの中学生にも、中学選びの小学生にも、その保護者や先生方にも、何か役に立つお話ができればと思っています。（ただし、工藤の個人的印象が中心ですので、そこはお断りしておきます。）

2. 本校の紹介

正式名称は「長野市立（シリツ）長野高等学校」ですが、県立の「長野高校」など、紛らわしい学校もありますので、略称として「市立（イチリツ）長野高校」という名称を用いています。

- ・4年前に創立百周年を迎えました。戦後は「長野市立高校」としてスタート。その後新たに現在地に発足した「長野市立第二高校」と統合し、昭和43年からは「長野市立皐月高校」として現在地に新発足しました。普通科と、被服科（のちに総合生活科となる）の二学科があり、県下唯一の市立高校として、一貫して女子校として歩んできました。
- ・平成20年に男女共学の市立長野高校が開校、校舎を新築、学年進行で皐月高校と入れ替わりました。（高校生は現在、14～16期生が在籍しているということになります。）
- ・また、平成29年に、高校内に長野市立長野中学校が開校しました。現在、中学生は5～7期生が在籍しています。一貫の1期生がこの3月に卒業しました。私はちょうどこの学年の担任をしていました。

3. 本校の入試について

（便宜上、「入試」と呼びますが、実際には適性検査や調査書をもとに総合的に判定しています。また、高校入試の来年度「定員」は「未定」であり、あくまでも昨年度と同数だと仮定したものです。）

< 中学入試 >

	県立2校	本校
定員	80名（40名×2クラス）男女規定なし	70名（35×2クラス）男女規定なし
検査内容	県立2校は同一問題。（文系問題50分、理系問題50分。午後は集団面接。）	独自問題（4教科に基づく問題50分。作文50分。午後は面接。）

- ・一昨年まで、中学は「男女同数」でした。つまり、男女別に入試を行っていたことになります。男女規定が撤廃されて2年目を迎えました。現実には男女生徒数に差があります。（実数は未公表。）

- ・本校は県立の中学や国立信州大学附属中と同一日(12月上旬)のため、併願はできません。
- ・昨年度の倍率は1.86倍、平均点は、適性検査が100点満点中46.7点、作文が50点満点中33.3点。

<高校入試>

	定員	前期選抜	後期選抜
～H31年度	160	定員80名。観点は二つ。 ①学習成績が優れ、入学後も意欲的に学習活動に取り組み、大学進学を希望する者 ②基礎学力があり、運動系・文化系の活動で顕著な実績や能力を持ち、高い目標を持ってその活動を継続する者	160名から前期合格者分を引いた残りを募集。(160-80=80)
令和以降(中入生が高校に入る)	160	定員35名。本校を志願する強い意志と高い目的意識を持って高校生活を送ろうとする者で、どの教科においても基本的学習内容が身につけており、部活動等で顕著な実績や能力を持ち、高い目標を持って、本校が指定した部(陸上・男子バスケ・女子バスケ・サッカー・スピードスケート)に所属し、その活動を継続する者。	160名から、前期合格者と、さらに内部進学分を引いた残り。(160-35-70=55。)

・本校の中学は小規模のため、部活の数はかなり絞られている。中学で比較的部員数の多い部活(弓道・テニスなど)は高校の部員も増え、実績も向上。しかし、高校の他の部活は、外部中学からの入部者が極端に減り、部員減少。(例えばソフトボールは強豪でしたが、いまや他校と合同チームです。)

・一貫生が市立長野高校へ進学する場合には、以下のような条件設定があります。

- ① 中3後期に「入学確約書」を提出した生徒は、高校入試を経ずに内部進学できる。
- ② 上記の書類を提出しない者は、別の高校を受検することになり、内部進学の特権を失う。
- ③ 「他校を高校受験して、不合格だったら内部進学する」ことはできない。

・もしも①「他校を受検したい・・・」

・もしも②「中学途中で転校・・・」

・もしも③「①や②のときの高校定員は・・・」

・もしも④「市立長野中にいたあいだに、欠席が多かったり評定が無かったりしたら・・・」

先生方は、中学の検査問題をごらんになったことはありますか。小学校の先生方は身近な問題として関心はお持ちかもしれませんが、中学校も高校の先生方にも、もっと関心が高まってほしいと思います。

あの検査をクリアした中学生と他の中学で学んだ中学生とがいずれ高校で出会います。そして、あの検査さえクリアしたらそのまま無試験で高校生になれる小学生がいるのです。また、結果としては残念な結果になったとしてもあの問題にチャレンジした生徒が、今教室で先生の目の前にいるのかもしれませんが。

それなのに、中高一貫校ほどの校種からも「うちとは違う学校」扱いされている気がします。こういう研究会のような場で、ぜひ意見を交換できたらと思っています。

今年の中1がチャレンジした問題の実例をご覧くださいませ。市立の問題は、ネットでは公表されていません。(書店では過去問が販売されています。)県立の問題はネットで公表されています。

私の感想ですが、市立の問題は「国語・算数・理科・社会」4科目の、これまでにコツコツと積み重ねてきた学習の成果が生かされているように感じます。県立（屋代と清陵）の適性検査は「すばやくミスなく処理できる力、つまり仕事の早さ」が問われており、出題内容は「将来、こういう能力が必要になるよ」というメッセージ性が強いものになっている気がします。教科の枠を超えた、現実的な問題だと思います。

一問だけ、例を挙げておきます。「円形のくぎにx本置きに糸を巻く」作業によって描かれる図形の規則性を見つけ、それを機械にプログラムする命令方法を答える問題です。

このプログラムでは、下のように模様をかきます。

下のプログラムを実行すると、①～③のように命令によって、矢印くんが進みながら直線を引いたり、回転したりして、模様をかいていきます。

プログラム

5 cm の直線を引く

↓

右に 120° 回転する

3 回くりかえす

① 矢印くんがスタート位置にいます。

② 5 cm の直線を引きます。

③ 右に 120° 回転して、次の直線を引きます。

矢印くん

2人は、図4のように、くぎの数を20本にして、xの値が9のときに完成する模様を、矢印くんにかかせようとしています。この模様をコンピュータで再現するプログラム(図5)は、どのようになりますか。

え ～ か に当てはまる数を書きなさい。ただし、くぎとくぎの間にかかる糸の長さは10 cmとします。

4. 本校の授業見学 (そして、それを見学する態度について)

市立長野中学	市立長野高校
<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月29日(月) 午後 中学単独授業公開 ・ 6月5日(月) 午後 中学単独の授業公開 ・ 6月17日(土) 中学単独授業公開と学校説明会 ・ 10月7日(土) 中学の入学者選抜説明会。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月27日(木) 高校単独 体験入学 ・ 10月16日(月) 中3対象高校授業見学 ・ 10月17日(火) 中3対象高校授業見学
5月20日(土)は、中高合同の授業公開(全校が登校して3時間授業。午後はPTA総会。)	

<5月20日(土)の全校授業公開について・・・工藤の感想>

- ・ 中3は友だちと誘い合ってくるタイプが多い。保護者と一緒に来る者もいるが、あまり一緒には回らない。保護者は教室に入ってきて授業に聞き入る方が多いが、中3は各教室を廊下からずっと見て回るタイプが多く、じっくり授業の内容を見ていく人が少ない。一通りすべて授業を見終えたら、踊り場や玄関ホールにたむろして次の時間を待つ。(10月16・17日もその傾向がたいへん強い。)
- ・ 小6は保護者と一緒に来て、一緒に行動して回るパターンが圧倒的。中学の教室(授業)を見たがる人が多い。一つの授業をじっくり見てから隣へと移るため、中学の教室はいつもあふれかえる。高校の授業まで見に来る小6は、あまりいない。(したがって、小6の中では「中学に受かりさえすれば」という気持ちが強く、「中高一貫六年間」「いずれこの高校の授業を受ける」「高校の授業を受けている中にも一貫生がいるはずだ」ということまで意識している人は少ないように思えます。)

<10月16日(月)の授業公開について・・・工藤の感想>

10月16日(月)は、長野市南部の小中学校が一斉休校して、先生方が研修会を行う日でした。平日に中3がフリーとなるので、この日に中3対象の市立長野高校「授業見学・学校説明会」を設定し、本校の中3生も一緒に高校見学をしました。普段、授業を見ることまではなかなかないため、良い機会となったようです。その週の週末に発行された中学の学年通信を見ると、生徒の感想が掲載されています。

「中学とは違うところがあってびっくりした」

○今日は高校の授業見学をしました。中学とのちがいや似ているところをみながら色々と考えられたのでよかったです。

○今日は高校の授業を見学しました。ノートではなくタブレットをつかっていたり授業の進め方が違ったりと様々なことを学びました。

○今日は高校見学をしました。高校では将来のことを考えて授業を選択したいなと思いました。

○学活で高校の授業をみた。なんか難しそう(移動とか時間割とか)で、慣れるのにすごい時間がかかりそうだった。

○今日は高校の見学をしました。雰囲気は中学と違っていて、びっくりしました。

同じ校舎ですが、高校生の授業を見る機会はほとんどないため、生徒達にとっては半年後の自分たちの生活をイメージする貴重な機会となったようです。

例えば理科室や体育館から教室へ戻るときに、高校生の校舎を歩くことは毎日のようにあります。そこから高校生の教室の中も見えます。昼休みにスマホをいじったり自動販売機で飲み物を買ったりお菓子を食べたりしている姿も、まる見えです。(もちろん、中学生は禁止です。)[「高校生活」をリアルに目の当たりにすることができて、憧れたり身近に感じたりできる、恵まれた環境なのは間違いありません。

だが「中高一貫生であること」「高校で学習するつもりで日頃から中学の学習をすること」への意識が深まっているかどうか、という点でこの学年通信の感想を見ると、やや浅いかというようにも感じます。

さきほど、全校授業公開の話の際、「中3は廊下からザっと見て回るタイプが多く、じっくり授業の内容を見ていく人が少ない。一通りすべて授業を見終えたら、踊り場や玄関ホールにたむろして次の時間を待つ。」という傾向が強いことを話しました。本校の中3も同じ見方をする者が多い印象です。だから、学年通信の感想を見ても、「別に他の高校を見ても同じではないか」という感想に思えます。

私なら、中学生にもっとこんなところを見てほしかった、と思う点を3点にまとめてみました。

①高校の授業では、「学習課題」「学習問題」がほぼ明示されない。生徒はどのような意識(目的)

で授業に臨み、そして、高校の先生は生徒の何を評価しているか。

- ・高校の教員には「1時間(50分)」で学習を完結させて評価する、という発想は、比較的、ない。
- ・「授業を数回やった結果、学習がどう深まったか」という見方をすることが多いし、授業も「話の途中で授業のチャイムが鳴ったから、続きは次回」といったことも、よくある。
- ・最近、評価の仕方が変わって義務教育と同じやり方(「A・A・A」だから「5」という方式)になり、細かく様々な面(学習の途中経過)を見るように変わってきたが、まだ一時間単位での到達を評価するところまではいっていない現状。テスト点がまだ評価のかなりの部分となっています。

② その学校でないと学べない科目なのか、すべての高校で学ぶ科目なのか

- ・私は国語の教員です。今の市立長野と前任の屋代高校では、実際の授業のやり方や内容は、そう大きな違いはありません。(どこの高校を見学しても、国語は大差ないだろうと私は思います。)
- ・だが、本校は総合学科であり、さまざまな選択科目が用意されています。4学級規模の学校ですが、同規模の普通科高校と比べれば比較的教員数も多く、商業科の先生も二人いるくらいです。

③ 上位生への配慮、反対に下位生への配慮をどのようにしているか

- ・もちろん先生によってやり方に違いがあることは間違いない。そこを承知の上で、ですが。得意な生徒と苦手な生徒の差は、中学と同じかそれ以上に広がっている。その中で、すべての生徒が満足できる学習内容とするか、みな、ずっと悩んでいます。TTはやったことがありません。
- ・また、高校になれば運動部の大会が平日にも入ります。(その時間は「公欠」となります。)しかし、授業は進んでしまいます。対応は各生徒任せです。先生たちはその対応にも配慮します。
- ・自分は高校の授業に入ったとき、どのくらい無理なくその授業に参加できるでしょうか。

これは、高校生が大学見学に行くときにも同じ注意をしています。

また、今年私は中3の授業を担当しています。その中で余談として、「簿記ってわかるか？」という話をしました。(毎回実施している漢字の書き取りドリルで「繰越金」という言葉が出た際、前に座っている生徒が「なんで送り仮名がないの?」とつぶやいたのがきっかけです。)[商業高校では必ず簿記を学習するが、その際に使用する勘定科目でこう表記すると決まっているからだ]ということをして10分かけてわかりやすく話をしました。商業高校というイメージのない中3にはとても新鮮に聞こえたようですし、本校は総合学科で商業科の先生もいて、簿記が学べることを知らない生徒がほとんどでした。

半年後に自分が進学する学校のことすら、きちんと知らずにいるのが、本校中学生の実態だと感じます。他校の中3が学校比較をして学校研究を深め、受験を意識して学習にも身を入れている中で、かなりのんびりしている印象です。先日も、塾の先生をお招きして、中3対象に進路講話をしていただきました。

5. 本校卒業後の進路 (R3年度とR4年度の比較)

本校は、中学が開校して7年目を迎え、中学からの1期生がこの3月(R4年度)に卒業しました。

(2) 進路状況推移

卒業年度(平成)	R4		R3		R2	
	現役	浪人	現役	浪人	現役	浪人
国公立大学	20	2	19	2	15	2
私立大学	69		65	3	62	7
大学校	2					
大学・大学校計	91	2	84	5	77	9
大学・大学校計割合	58.3%		54.2%		49.4%	
公立短大	4		2		3	
私立短大	4	1	17		15	1
短大計	8		19		18	1
短大計割合	5.1%		12.3%		11.5%	
医療系専門学校	10		17		11	
他専門学校等	24		25		37	1
専門学校等計	34		42		48	1
専門学校等計割合	21.8%		27.1%		30.8%	
進学計	133		145		143	
進学率	85.3%		93.5%		91.7%	
就職・公務員	5		5		7	
就職率	3.2%		3.2%		4.5%	
その他	18		5		6	
その他割合	11.5%		3.2%		3.8%	
卒業生数	156		155		156	

(3) のべ合格数推移(進学)

卒業年度(平成)	R4		R3		R2	
	現役	浪人	現役	浪人	現役	浪人
国公立大学	22	2	20	2	16	3
私立大学	120	4	126	7	107	14
大学計	142	6	146	9	123	17
公立短大	4		2		3	
私立短大	4	1	17		21	1
短大計	8		19		24	1
医療系専門学校	13		21		11	
他専門学校等	28		27		40	1
専門等計	41		48		51	1

この表は、過去3年の進路状況推移を表にまとめたものです。「R4」がこの3月の卒業生、中学からの一貫1期生を含む学年です。(一貫生と高入生の内訳は公表していません。)

中でも、R3年度とR4年度を比べると、「その他」(要するに浪人生)が、5名から18名に増加しました。生徒の志望するレベルが上がった現れの一つだと思います。また、男子比率が高まったというのも、浪人が増えた一つの要因かもしれません。市立長野高校は、女子校の流れをくむ学校でもありましたので、皐月高校から市立に変わった後も、比較的女子の多い校風でした。(R3年度卒業学年は、32人学級に男子は7~8人という感じでした。)ところが、中学入試は男女同数の定員でしたので、(現在は中学入試でも性別規定が無くなりましたが、)中学開校以来、5期生まで男女同数です。その中学生がそのまま来ましたから、男女のバランスが良い状態となったのです。

大学別の合格先一覧をみてみましょう。左は国公立大学(全部)で、右は主な私立大学です。

合格先一覧(過去3年分)						合格先一覧(過去3年分)									
国公立大学						主な私立大学									
学校名	卒業年度 学部等	R4		R3		R2		学校名	卒業年度 学部等	R4		R3		R2	
		現役	浪人	現役	浪人	現役	浪人			現役	浪人	現役	浪人		
帯広畜産大	畜産	1						獨協大	外国語			5			
群馬大	理工	2						獨協大	経済	1					1
上越教育大	学校教育	1				1	1	獨協大	国際教養			1			
富山大	人文			1				青山学院大	経済			1			
	経済	1						青山学院大	地球社会共生						1
	工			3				学習院大	法	1					
金沢大	都市デザイン					1		慶應義塾大	経済	1					
	理工学域	1						慶應義塾大	商	1					
信州大	人文					1		国際基督教大	教養	1					
	経法	1				1		工学院大	工					2	
	教育	1	1	1				駒沢大	法	1					
	工	1	1			1		芝浦工大	工		1			1	
名古屋大	理	1						上智大	総合グロ	1					
岡山大	医	1						成蹊大	法			1			
高知大	人文社会							成蹊大	経済			1			
釧路公立大	経済			1				専修大	文	1	1		1		
国際教養大	国際教養	1					専修大		法	1					
前橋工科大	工(夜)						専修大		経営		1				
群馬県立女子大	国際コミ					1		専修大	ネットワ		1				
高崎経大	地域政策					2		専修大	国際コミュ			1			
新潟県立大	国際地域			1		1		東京電機大	理工					1	
三条市立大	工					1		東京電機大	未来科学					2	
富山県立大	工	1				1		東京理科大	理	1					
長岡造形大	造形			1				東洋大	社会	1		2		2	
都留文科大	文			4					東洋大	理工	1	3			
長野県看護大	看護	1		2					東洋大	健康スポ	1				
長野県立大	グローバ	3		1		2		東洋大	食環境科	1					
	健康発達			2		1		日本大	工	1		1			
長野大	企業情報	1					日本大		生産工	1					
	社会福祉	1		2			日本大		理工					1	
諏訪東京理科大	環境ソー	2		1			日本大		スポーツ					1	
	工					1			日本大	国際関係			1		
山口県立大	社会福祉				1			日本大	生物資源				1		
高知県立大	文化				1			日本大	芸術	1					
	計		24		22		19	法政大	経済			1			
								明治大	政治経済	1					
								立教大	法	1					

国公立は、上から「高知大」までが国立、そこから下が「公立大」です。例年は、地元や近隣県の公立大学がメインターゲットでした。R4年度は国立大学が5名から12名へと増加しました。6名が一般入試(信大医学部検査技術、金沢大ほか)、共テ利用推薦が3名(名古屋大、ほか)でした。つまり9名がペーパーテストでの合格です。国立増加の要因は(皆さんのご想像の通り)一貫生のがんばりが大きいですが、もちろん、高入生もいます。また、公立大(10名)でみると、一貫生と高入生の人数はかなり近くなっています。秋田県の国際教養大にも、一般試験での合格が出ました。

国公立は併願はできませんから、それだけの力のある生徒がそれなりの人数いる、ということです。

私立大学の合格状況も、世間ではだいぶ驚きをもって迎えられたようです。資料の都合上、ごく一部、特定の大学だけ取り上げておりますが、ご了承ください。

(世間で「W I S K (Waseda・ICU・Sophia・Keio)」「早慶上理」「GMARCH」「成成明学獨國武」「日東駒専」「東京四工大」などと呼ばれるグループを中心にした大学だけを取り上げました。)

最難関とされる大学は、(こちらをご想像の通り、)数名の一貫生が併願で複数合格したものです。この生徒たちは、それぞれに一つずつ抜けた得意科目があった生徒でした。私が担当していた国語(古典)などは苦手なままだった者も、受験科目に古典が無い大学をうまく選んで合格していました。一方で、苦手な科目も友達と教えあったりして「勉強を楽しんでいる」姿が見られる生徒もいました。

3. 本校の探究活動

高校は、「普通科」ではなく「総合学科」であり、1年時に「産業社会と人間」という必修科目が週に2時間あります。総合学科とは多様な選択科目を用意した総合的な学校であり、1年生で「産業社会と人間」という科目を通じて自分の進路希望を見つめ深め、2年生からの科目選択に備える、という科目です。

その他に「総合的な探究の時間」が他校同様3年間で3時間あるため、探究的に学ぶ時間が他校よりも多いのが現状です。(次の画像は、本校の、高校案内パンフレットより。)

- 1年次は全員が同じ教科・科目(芸術を除く)を履修します。
- 2・3年次は、各自の進路や興味・関心を深く追求できるように、時間割をデザインすることができます。

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
1年	現代の国語	言語文化	歴史総合	地理総合	数学I	数学A	化学基礎	生物基礎	体育	保健	音楽I 美術I 書道I	英語コミュニケーションI	論理・表現I	家庭基礎	産業社会と人間	LHR																	
共通履修科目															選択履修科目												共通						
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
2年	文系モデル	論理国語	公共	情報I	地学基礎 または 物理基礎	体育	保健	英語 コミュニケーションII	古典探究	日本史探究 世界史探究	論理・表現II	数学II	数学B	総合的な探究の時間	LHR																		
	理系モデル								数学II	数学B	化学	物理 または 生物	論理・表現II	古典探究																			
共通履修科目										選択履修科目															共通								
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
3年	文系モデル								古典探究	探究数学IA	地学基礎	日本史セミナー	政治・経済	論理・表現II	化学基礎 生物基礎	探究数学IB	古典セミナー	総合的な探究の時間	LHR														
	理系モデル	論理国語	体育	英語 コミュニケーションII	古典探究	数学III	数学C	論理・表現II	地理探究	化学	物理	数学セミナー																					
	文系+理系モデル				言語表現	文学国語	探究基礎 生物	総合英語I	ディベート ディスカッション	エッセイ ライティング	栄養	スポーツ 総合演習	医療系数学																				

※2,3年次はモデルパターンです。 今後、検討するなかで変更になることもあります。

私が本校へ5年前に赴任した当初、この少人数でこれだけの国公立進学を果たしている率の高さに驚いたことを覚えています。「探究」活動の豊かさを武器にして推薦入試を上手に利用している生徒が多い、印象でした。「総合的な探究の時間」の他に「産業社会と人間」という必修科目があるために、他の普通科高校よりも「探究」にかかる時間が多く深い特徴があります。そのなかで「自分はこんな探究を試行錯誤してみた」「こんなテーマで社会の方々と協働して調べてみた」といったことなど、「語れる」ネタを持っている生徒がとても多いことがとても有利に働いていると感じました。

中学は、週の時間数が標準より3時間多く、その時間で探究的な学びを深める科目を学習しています。(次の画像は、本校の中学校パンフレットから引用。)

あなた自身の「問い」から始まる探究学習

翼プロジェクト

たしかな学力と学ぶ意欲の育成

探究基礎

教科関連学習

- 資料活用表現(国語・社会)
- 理数活用(数学・理科)
- コミュニケーション(英語)

探究 学習

総合的な学習の時間

さまざまな体験学習

長野市の自然・歴史・文化が教科書
ふるさと長野市全域が教室
長野市に生きるすべての人が先生

長野市の文化・歴史・風土理解、自然体験、
社会体験、企業見学、大学見学、ボランティア活動 等

「探究基礎」の授業では、国語・数学・英語の通常の授業では扱わない内容を学習します。

外国の方に善光寺を英語で紹介しよう!! (1年)



外国の方にインタビューをし、善光寺に対してどのような疑問を持っているか調べました。(7月)



高校の先輩にアドバイスを受けながら、善光寺の紹介文を作成しました。



長野県内在住の外国の方に、善光寺紹介ボードを使いながら、英語で善光寺を案内しました。(10月)

『働くとは…』問いを追究する社会体験学習(2年)



友と働くことについて対話し、「問い」を立てました。



社会体験学習に向けて、心構えやマナーについてのお話をお聞きました。(9月)



3日間の社会体験学習を実施しました。(9月)

元気だ長野! マイプロジェクト(3年)



自己課題の設定
自分の関心のある分野についてインターネットや文献、インタビューなどで調査し、自分が探究する「問い」を立てました。



実社会での探究活動
企業や役所などの施設へ出向き、地域の方と交流する中で自らの「問い」を深めました。



長野市のために自分たちができること
地域の施設でイベントを行ったり、長野市の魅力を発信するパンフレットを作成したりすることを通して、地域貢献に繋がりました。

7. きいごに

当初、このレポートを作り始めた時は、この3月に卒業した高校生の進路先について紹介すればいいな、というつもりで書き始めました。(一貫の一期生で世間の注目度も高く、それなりの結果も出て、私も内情を詳しく知っていますから。)ですが、書き始めていくうちに、あれもこれも言いたくなってきて。

また、今回は小学校の先生方ともお話しできる貴重な機会でもあります。中高一貫校や高校の現状もあれこれお伝えしたいことも出てきました。そこで、とりとめのないレポートになりました。すみません。

本校では、高入生(の特に前期入学生)は部活を頑張る傾向が強く、一方、生徒会の役員などは一貫生が担う面が多くなっている現状です。表面的には打ち解けて仲良く過ごしていますが、どこか遠慮しあっている感じにも私には見えます。協力してこれからの高校を作ってほしい、と願うばかりです。